

議 題

- (1) 令和元年度事業報告について
- (2) 令和2年度事業について
- (3) その他

【結果概要】

(1) 令和元年度事業報告について

- ・概ね順調に事業に取り組まれており、今後県民への健康づくり通信への反映や来年度事業の展開が期待される。保健所事業において、ややばらつきが見えるのは、各圏域・各保健所の個性（地域性に合わせた取り組み）と拝察するが、情報交換（工夫や悩み）の機会は確保できているのか。
- ・報告書 P21～22 (4) ～ (6) 各疾患の有病者、服薬者の割合について、この分析で有病状況を大枠で確認できるが、その中で健診結果が有所見のある者のうち、医療機関未受診者が多いのか、コントロール不良者が多いのかによって、対策の考え方が変わってくる。そのことを踏まえた読み取りが必要となるため、保険者や県民への示し方に注意が必要ではないか。
- ・県内比較で平均数値より良い市町でも、全国と比較すると悪い場合もあるため、県民に周知する際は注意を要すると考える。
- ・分析により愛媛県民の健康課題を「高血圧」として、要因分析を行っているが、明らかになった要因への対策や提言、県民へのメッセージを追加していただけると良いと思う。

(2) 令和2年度事業について

- ・今般の新型コロナウイルス感染症対策に、ますます取り組まなければいけない状況がしばらく予想され、本事業の遂行が計画通りにいかない可能性も考えられる。せつかくの事業なので、その際は延長等の方策を可能な限り取っていただきたい。データ分析事業で、旧市町村（70）単位の分析について意義があると考えますが、地域保健研究集会抄録（配布資料 P12）によると公表方法に制限があるとのことで、是非活用できるように工夫していただきたい。
- ・特定健診質問票にある「食べる時の状態を問う設問」は残存歯数と結びつく項目であり、残存歯数と平均寿命や健康寿命、認知症の関係などがエビデンスとして出てきているため、解析する質問項目の中に入れていただきたい。
- ・この報告書の分析結果、記載内容は専門的な部分が多く、これをどのように分かりやすく県民に還元（媒体作成・周知当等）するか、保険者の事業へどのように活用していくか、来年度は検討していく必要がある。
- ・インセンティブを活用した予防・健康づくり事業（P73）について、対象者を国保のみとせず、協会けんぽ加入者も含めて検討していただきたい。
- ・3年目の更なる事業推進へつながるよう、県（本庁）、各保健所、市町間の役割の明確化と連携の強化を図ることが重要と考える。そのため、P69 で示していただいている【令

和2年度の取り組み】の1から7に加え、具体的な事業計画（年間スケジュール、評価なども含む）が示されるとよい。地域の医師会等との連携について、歯科医師会を入れていただくと効果的と考える。

- ・介護は、リスクファクターよりも疾病やフレイル、社会参加状況等の要因が大きいと思われるので、今回得た知見とうまくリンクさせて、介護予防対策につながる結果を提供していただけると有難い。

（3）その他

- ・ひさやま元気予報を利用して保健指導を行うような取り組みは県民にとってもわかりやすく良い事業だと思う。
- ・県内特定健診ビッグデータの分析による肥満、高血圧、糖尿病等生活習慣病の地域別特性を市町へ情報発信し、各地域にあった健康づくり（健康教育、保健指導等）の実施が必要だと思う。
- ・保険者協議会では、国保、被用者保険の健診・医療の分析を進めているところであるため、この結果を情報共有させていただきたい。令和2年度は、各保険者のデータヘルス計画の中間評価の年となるため、このビッグデータを評価に活用できるか検討いただきたい。新たな分析を行うより、すでにあるデータで評価等を行うことで保険者の負担軽減につながると考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大が愛媛県でも危惧される中、安全な健診の実施について県民に対する情報提供が必要と考える。